

Catalyst スイッチのコンソールポートに端末を接続する方法

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[Catalyst 1900/2820、2900/3500XL、2940、2950/2955、2970、3550、3560 および 3750 シリーズスイッチへの端末の接続](#)

[端末への接続](#)

[Catalyst 2948G-L3、4908G-L3、および 4840G シリーズスイッチへの端末の接続](#)

[コンソールポートのピン配置](#)

[Catalyst 2926 および 2926G シリーズスイッチへの端末の接続](#)

[Catalyst 2926G シリーズスイッチ](#)

[Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine I および II コンソールポートへの端末の接続](#)

[コンソールポートへ接続するための端末の設定](#)

[Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine III コンソールポートへの端末の接続](#)

[コンソールポートへ接続するための端末の設定](#)

[Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine II G および III G コンソールと RSFC ポートへの端末の接続](#)

[コンソールポートモードスイッチ](#)

[コンソールまたは RSFC ポートへ接続するための端末の設定](#)

[Catalyst 4500/4000 Supervisor Engine I コンソールポートへの端末の接続](#)

[Catalyst 4500/4000 Supervisor Engine II/II+/III/IV、2948G、2980G および 4912G への端末の接続](#)

[Catalyst 6500/6000 Supervisor Engine I、II、および 720 コンソールポートの信号とピン配置](#)

[コンソールポートモードスイッチ](#)

[コンソールポートモード1信号およびピン配置](#)

[コンソールポートモード2の信号およびピン配置](#)

[Catalyst 8510CSR、および 8540CSR スイッチのコンソールポートのピン配置](#)

[Catalyst スイッチのコンソールポートへの端末接続に関するトラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、管理用端末の接続と設定をするためのデフォルトパラメータの使用を中心に説明しています。このドキュメントでは、Catalyst 1900、2820、2900、3500、2940、2950、2970、3550、3560、2948G-L3、4500/4000、4840G、4908G-L3、5500/5000、6500/6000、および 8500 シリーズスイッチについて説明しています。さまざまな接続速度、ケ

ケーブル、またはデバイスの使用についての詳細は、『[マルチレイヤ LAN スイッチ](#)』にある、ご使用の Catalyst シリーズ スイッチのハードウェアとインストール ガイドを参照してください。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Catalyst 1900、2820、2900、3500、2940、2950、2970、3550、3560、2948G-L3、4500/4000、4840G、4908G-L3、5500/5000、6500/6000、および 8500 シリーズ スイッチ

上記スイッチでは、コンソール ポートに端末を接続するため、ロールオーバーまたはストレート RJ-45 ケーブルのいずれかを使用する必要があります。使用するケーブルは、スーパーバイザ エンジンとその他の要因によって異なります。ロールオーバー ケーブルとストレート ケーブルのピン配置は、スイッチ間の 10/100BASE-TX イーサネット ポートを接続できるクロスケーブルとは異なっています。使用するケーブル タイプを特定するには、ドキュメント『[RJ-45 ケーブル](#)』または『[コンソールおよび補助ポートに関するケーブル接続ガイド](#)』を参照してください。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[Catalyst 1900/2820、2900/3500XL、2940、2950/2955、2970、3550、3560 および 3750 シリーズ スイッチへの端末の接続](#)

同梱されていたロールオーバー ケーブルと DB-9 アダプタを使って、スイッチのコンソール ポートに PC を接続します。端末にスイッチのコンソール ポートを接続する場合は、RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタを準備する必要があります。このアダプタが同梱されているキット (部品番号 ACS-DSBUASYN=) は、シスコに注文できます。PC または端末は、VT100 ターミナル エミュレーションをサポートしている必要があります。ターミナル エミュレーション ソフトウェア (Microsoft Windows HyperTerminal または Symantec Procomm Plus などの PC アプリケーション) を使用すると、セットアップ プログラム実行中、スイッチと PC 間またはスイッチと端末間の通信が可能になります。

次のステップに従って、PC または端末をスイッチに接続します。

1. ハードウェア フロー制御を使ってスイッチと通信するように、PC またはターミナル エミュレーション ソフトウェアを設定します。
2. 次のコンソール ポートのデフォルト特性に一致するように、PC または端末のボー レートと

- 文字フォーマットを設定します。9600 ボー8 データ ビット1 ストップ ビットパリティなし
3. 同梱されていたロールオーバー ケーブルを使って、RJ-45 コネクタをコンソール ポートに挿入します。
 4. 同梱されていた RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタを PC に接続します。または適切なアダプタを端末に接続します。
 5. 同梱されていたロールオーバー ケーブルのもう一方の端を、接続したアダプタに挿入します。
 6. PC または端末の場合は、ターミナル エミュレーション プログラムを実行します。

表 A-1: コンソール ポートの DB-9 アダプタとの信号と配線

コンソール ポート (DTE)	RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル		RJ-45-to-DB-9 ターミナルア ダプタ	コンソ ールデ バイス
信号	RJ-45 ピン	RJ-45 ピン	DB-9 ピン	信号
RTS1	1	8	8	CTS2
接続なし	2	7	6	DSR
TxD3	3	6	2	RxD4
GND5	4	5	5	GND
GND	5	4	5	GND
RxD	6	3	3	TxD
接続なし	7	2	4	DTR6
CTS	8	1	7	RTS

1 RTS = Request To Send

2 CTS = Clear To Send

3 TxD = Transmit Data

4 RxD = Receive Data

5 GRD = Ground

6 DTR = Data Terminal Ready

端末への接続

薄いフラット型 RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタを使って、コンソール ポートを端末に接続します。表 A-2 には、コンソール ポート、RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル、および RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタのピン配置を掲載しています。

注: RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタは、スイッチに同梱されていません。このアダプタが同梱されているキット (部品番号 ACS-DSBUASYN=) は、シスコに注文できます。

表 A-2: コンソール ポートの DB-25 アダプタとの信号と配線

コンソール	RJ-45-to-RJ-45	RJ-45-to-DB-25	コンソ

ポート (DTE)	ロールオーバー ケーブル		ターミナル ア ダプタ	ール デ バイス
信号	RJ-45 ピン	RJ-45 ピン	DB-25 ピン	信号
RTS	1	8	5	CTS
接続なし	2	7	6	DSR
TxD	3	6	3	RxD
GND	4	5	7	GND
GND	5	4	7	GND
RxD	6	3	2	TxD
接続なし	7	2	20	DTR
CTS	8	1	4	RTS

Catalyst 2948G-L3、4908G-L3、および 4840G シリーズ スイッチへの端末の接続

コンソール ポートへの直接コンソール接続から、または管理ポートを介してリモートで、Catalyst スイッチ ルータを設定できます。

- RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと、(「Terminal」 ラベルが付いた) RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタを使って、コンソール ポートを、ターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行している PC に接続します。
- 直接コンソール接続を使用している場合、ターミナル エミュレーション プログラムを、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビットに設定します。

コンソール ポートのピン配置

コンソール ポートは、RJ-45 レセプタクルです。DTR と DSR ハンドシェイク信号がサポートされています。RTS 信号は、CTS 信号の状態を追跡します。[表 B-1](#) には、コンソール ポートのピン配置を掲載しています。

表 B-1：コンソール ポートのピン配置

ピン留め	信号	方向	説明
1 ¹	RTS/CTS	出力	送信要求/送信許可
2	DTR	出力	データ端末レディ
3	TxD	出力	データ送信
4	SGND		シグナル グラウンド
5	SGND		シグナル グラウンド
6	RxD	入力	データ受信
7	DSR	入力	Data Set Ready
8 ¹	RTS/CTS	入力	送信要求/送信許可

1 ピン 1 は、ピン 8 に接続されています。

Catalyst 2926 および 2926G シリーズ スイッチへの端末の接続

Catalyst 2926 シリーズ スイッチで、スーパーバイザエンジンフロントパネルのコンソールポートを検出します。次の図に示すように、ポートには「CONSOLE」というラベルが付いています。

図：コンソールポートコネクタ (Catalyst 2926 シリーズ スイッチ)

スーパーバイザエンジンコンソールポートは、DCE EIA/TIA-232 インターフェイスをサポートしている DCE DB-25 レセプタクルです。EIA/TIA-232 は、最大 64 Kbps の信号速度で非平衡回線をサポートしています。

コンソールポートを接続する前に、ボーレートを決定するために端末のドキュメントをチェックしてください。端末のボーレートは、スイッチのコンソールポートのデフォルトのボーレート (9600 bps) と一致している必要があります。次のように端末を設定します。

- 9600 bps
- 8 データビット
- パリティなし
- 1ストップビット

端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレートケーブルを使用します。モデムや Data Service Unit (DSU; データサービスユニット) などのリモート DCE デバイスにスイッチを接続するには、ヌルモデムケーブルを使用します。DCE および DTE ケーブルコネクタについては、次の図を参照してください。

図：EIA/TIA-232 アダプタケーブルコネクタ、ネットワーク側

注: コンソールポートは非同期 (async) シリアルポートです; このポートに接続するどのデバイスでも非同期伝送が可能である必要があります。

システム実行時、DSR と Data Carrier Detect (DCD; データキャリア検出) は両方ともアクティブです。RTS 信号は、CTS 入力の状態を追跡します。コンソールポートは、モデム制御あるいはハードウェアフロー制御をサポートしません。表 C-1 には、コンソールポートのピン配置を掲載しています。

表 C-1: Catalyst 2926 シリーズ コンソールポートのピン配置

ピン留め	信号	方向	説明
1	GND		グラウンド
2	RxD	—>	データ受信
3	TxD	<	データ送信
4	CTS	<	送信可
5	RTS	—>	リターン送信
7	GND		グラウンド
8	DTR	—>	データ端末レディ
20	DCD	<	データ搬送検出

Catalyst 2926G シリーズ スイッチ

次の図は、Catalyst 2926G シリーズ スイッチの前面パネルにあるコンソールポートと Auxiliary (AUX; 補助) ポートを示しています。

注: 現在、AUX ポートはサポートされていません。

図: コンソールポートと補助ポートのコネクタ

RJ-45 コネクタを備えた EIA/TIA-232 非同期シリアルポートであるこのコンソールポートは、ハードウェアフロー制御を備えたフル機能搭載の DTE 接続です。

薄いフラット型 RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルで次のいずれかのアダプタに、端末を接続します。

- RJ-45-to-DB-9 アダプタ
- RJ-45-to-D-subminiature メス型アダプタ
- RJ-45-to-D-subminiature オス型アダプタ

注: 使用するアダプタは、端末のコネクタによって異なります。

表 C-2: Catalyst 2926G シリーズ コンソールポートのピン配置

コンソールポート	コンソールデバイス
ピン (信号)	接続先
1 はピン 8 にループしています。	
2 (DTR)	DSR
3 (RxD)	TxD
4 (GND)	GND
5 (GND)	GND
6 (TxD)	RxD
7 (DSR)	DTR
8 はピン 1 にループしています。	

注: Catalyst 2926G シリーズ スイッチに同梱されているコンソールポート アクセサリキットに、RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルとアダプタが入っています。

Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine I および II コンソールポートへの端末の接続

スーパーバイザエンジンの前面パネルにポートがあります。上の図に示されているように、ポートには「CONSOLE」というラベルが付けられています。このコンソールポートは、DCE EIA/TIA-232 インターフェイスをサポートしている DCE DB-25 オス型レセプタクルです。システム実行時は、DSR と DCD は両方ともアクティブです。RTS 信号は、CTS 入力の状態を追跡します。コンソールポートは、モデム制御あるいはハードウェアフロー制御をサポートしません。

注: Supervisor Engine I または II の交換用コンソールポート アクセサリキットが必要な場合、部品番号は ACS-2500ASYN= です。これは、他の多くの Cisco ルータ (Cisco 2500 シリーズを含む) に同梱されているものと同じキットです。

モデムなどのリモート DCE デバイスにスイッチを接続するには、ヌル モデム ケーブルを使用します。Supervisor Engine I にリモートアクセスする方法の詳細は、ドキュメント『[Catalyst スイッチのコンソールポートへのモデムの接続](#)』を参照してください。端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレート型ケーブルを使用します。

図： EIA/TIA-232 DB-25 アダプタ ケーブル コネクタ 表 D-1： スーパーバイザ エンジン I および II のコンソール ケーブルのピン配置、25 ピン ストレート ケーブル

スイッチ コンソール (DCE)	端末 (DTE)
2 Rxd	2 TxD
3 Txd	3 RxD
4 RTS	4 RTS
5 CTS	5 CTS
6 DSR	6 DSR
7 GND	7 GND
8 DCD	8 DCD
20 DTR	20 DTR

表 D-2： スーパーバイザ エンジン I および II のコンソール ケーブルのピン配置、25 ピン-9 ピン アダプタ ケーブル

スイッチ コンソール (DCE)	端末 (DTE)
2 Rxd	3 TxD
3 Txd	2 RxD
4 RTS	7 RTS
5 CTS	8 CTS
6 DSR	6 DSR
7 GND	5 GND
8 DCD	1 DCD
20 DTR	4 DTR

[コンソール ポートへ接続するための端末の設定](#)

注: コンソールポートは async シリアルポートです; このポートに接続するどのデバイスでも非同期伝送が可能である必要があります。

コンソール ポートを接続する前に、ボー レートを決定するために端末のドキュメントをチェックしてください。 端末のボー レートは、コンソール ポートのデフォルトのボー レート (9600 ボー) と一致している必要があります。 次のように端末を設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット

[Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine III コンソール ポートへの端末の接続](#)

スーパーバイザ エンジンの前面パネルにポートがあります。 上の図に示されているように、ポートには「CONSOLE」というラベルが付けられています。 このポートは、ハードウェア フロー制御と RJ-45 コネクタを備えた、EIA/TIA-232 非同期、シリアル、フル機能の DTE 接続です。 端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレート型ケーブルを使用します。

注: ご使用のスーパーバイザ エンジン III のコンソール ポート アクセサリ キットを取り替える必要がある場合、部品番号は、CAB-S3-CONSOLE= です。

注: AUX ポートはサポートされていません。

図: EIA/TIA-232 RJ-45 アダプタ ケーブル コネクタ 表 E-1: Supervisor Engine III コンソールポートのピン配置、RJ-45-to-DB-25 アダプタ ケーブル

スイッチ コンソール (DTE) の RJ-45 (ストレート ケーブルを使用)	端末の DB-25 (DTE)
1 RTS (ピン 8 にループされる)	
2 DTR	6 DSR
3 RxD	2 TxD
4 GND	7 GND
5 GND 4 につなぐ	7 GND
6 TxD	3 RxD
7 DSR	20 DTR
8 CTS (ピン 1 にループ)	

表 E-2: スーパーバイザ エンジン III コンソール ポートのピン配置、RJ-45-to-DB-9 アダプタ ケーブル

スイッチ コンソール (DTE) の RJ-45 (ストレート ケーブルを使用)	端末の DB-9 (DTE)
1 RTS (ピン 8 にループされる)	
2 DTR	6 DSR
3 RxD	3 TxD
4 GND	5 GND
5 GND 4 につなぐ	5 GND
6 TxD	2 RxD
7 DSR	4 DTR
8 CTS (ピン 1 にループ)	

[コンソール ポートへ接続するための端末の設定](#)

注: コンソールポートは async シリアルポートです; このポートに接続するどのデバイスでも非同期伝送が可能である必要があります。

コンソール ポートを接続する前に、ボー レートを決定するために端末のドキュメントをチェックしてください。 端末のボー レートは、コンソール ポートのデフォルトのボー レート (9600 ボー) と一致している必要があります。 次のように端末を設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット

[Catalyst 5500/5000 Supervisor Engine II G および III G コンソールと RSFC ポートへの端末の接続](#)

スーパーバイザ エンジンの前面パネルに、スイッチ コンソール ポートと Route Switch Feature Card (RSFC) コンソール ポートがあります。上の図に示されているように、ポートには「CONSOLE」と「RSFC」というラベルが付けられています。両方のポートは、ハードウェア フロア制御と RJ-45 コネクタを備えた、EIA/TIA-232 非同期、シリアル、フル機能の DTE 接続です。

注: Supervisor Engine II G または III G の交換用コンソール ポート アクセサリ キットが必要な場合、部品番号は ACS-2500ASYN= です。これは、他の多くの Cisco ルータ (Cisco 2500 シリーズを含む) に同梱されているものと同じキットです。

Supervisor Engine II G または III G コンソール ポートに接続されるケーブルのタイプは、コンソール ポート モード スイッチの位置によって異なります。詳細は、このドキュメントの「[コンソール ポート モード スイッチ](#)」セクションを参照してください。

モデムなどのリモート DCE デバイスにスイッチを接続するには、ヌル モデム ケーブルを使用します。Supervisor Engine II G または III G にリモート アクセスする方法の詳細は、ドキュメント『[Catalyst スイッチのコンソール ポートへのモデムの接続](#)』を参照してください。端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレート ケーブルを使用します。

コンソール ポート モード スイッチ

コンソール ポート モード スイッチにより、端末 (DTE) またはモデム (DCE) のいずれかへの接続が可能となります。接続は選択したモードと使っているケーブルによって異なります。

注: スーパーバイザ エンジン モジュール II G とスーパーバイザ エンジン モジュール III G に同梱されているケーブルとアダプタは、Cisco 2500 シリーズ ルータ (およびその他の Cisco 製品) で使われているものと同じです。

コンソール ポート モード スイッチは次のように使用します。

- **モード 1:** スイッチを押して in の位置にします。スーパーバイザ エンジンに同梱されているコンソール ケーブルと (「Terminal」というラベルが付いている) DTE アダプタを使って端末をポートに接続するのに、このモードを使用します。このモードは、スイッチに同梱されているコンソール ケーブルと (「Modem」というラベルが付いている) DCE アダプタを使って、モデムをポートに接続するためにも使用できます。
- **モード 2:** スイッチを押して out の位置にします。Supervisor Engine III コンソール ケーブル (このケーブルは同梱されていません) を使って端末をポートに接続するのに、このモードを使用します。

図 : EIA/TIA-232 RJ-45 アダプタ ケーブル コネクタ 表 F-1 : コンソール ポートの DB-9 アダプタとの信号と配線

スイッチ コンソール (DTE)	RJ-45-RJ-45 ロールオーバー ケーブル		RJ-45-to-DB-9 アダプタ	端末 (DTE)
信号	RJ-45 ピン	RJ-45 ピン	DB-9 ピン	信号
RTS	1 ¹	8	8	CTS
DTR	2	7	6	DSR

TxD	3	6	2	RxD
GND	4	5	5	GND
GND	5	4	5	GND
RxD	6	3	3	TxD
DSR	7	2	4	DTR
CTS	8 ¹	1	7	RTS

1ピン1は、ピン8に内部接続されています。

表 F-2： コンソール ポートの DB-25 アダプタとの信号と配線

スイッチ コンソール (DTE)	RJ-45-to-RJ-45 ローオーバーケーブル		RJ-45-to-DB-25 アダプタ	端末 (DTE)
信号	RJ-45 ピン	RJ-45 ピン	DB-25 ピン	信号
RTS	1 ¹	8	5	CTS
DTR	2	7	6	DSR
TxD	3	6	3	RxD
GND	4	5	7	GND
GND	5	4	7	GND
TxD	6	3	2	TxD
DSR	7	2	20	DTR
CTS	8 ¹	1	4	RTS

1ピン1は、ピン8に内部接続されています。

[コンソールまたは RSFC ポートへ接続するための端末の設定](#)

注: コンソールポートは async シリアルポートです; このポートに接続するどのデバイスでも非同期伝送が可能である必要があります。

コンソールポートを接続する前に、ボーレートを決定するために端末のドキュメントをチェックしてください。端末のボーレートは、コンソールポートのデフォルトのボーレート (9600 ボー) と一致している必要があります。次のように端末を設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット

[Catalyst 4500/4000 Supervisor Engine I コンソールポートへの端末の接続](#)

次の図のコンソールポートは、DCE EIA/TIA-232 インターフェイスをサポートしている DCE

DB-25 レセプタクルです。EIA/TIA-232 は、最大 64 Kbps の信号速度で非平衡回線をサポートしています。

図： DCE DB-25 コネクタ

モデムや DSU などのリモート DCE デバイスにスイッチを接続するには、ヌル モデム ケーブルを使用します。端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレート ケーブルを使用します。

Catalyst 4500/4000 スーパーバイザ エンジン I のコンソール ポートでは DB-25 コネクタが使われていて、DTR、DSR、CTS および RTS ハンドシェイク信号がサポートされています。[表 G-1](#) に、Catalyst 4500/4000 スーパーバイザ エンジン I コンソール ポートのピン配置を示します。

表 G-1： Catalyst 4003 コンソール ポートのピン配置

ピン留め	信号	方向	説明
1	グラウンド		
2	RxD	入力	データ受信
3	TxD	出力	データ送信
4	CTS	入力	送信可
5	RTS	出力	送信要求
7	グラウンド		
8	DTR	出力	データ端末レディ
20	DSR	入力	Data Set Ready

[Catalyst 4500/4000 Supervisor Engine II/II+/III/IV、2948G、2980G および 4912G への端末の接続](#)

コンソール ポートへの直接コンソール接続から、Catalyst 4500/4000 シリーズ スイッチを設定できます。

- RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと、(「Terminal」ラベルが付いた) RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタを使って、コンソール ポートを、ターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行している PC に接続します。直接コンソール接続を使用している場合、ターミナル エミュレーション プログラムを、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビットに設定します。

[表 H-1](#) は、スイッチ コンソール ポートのピン配置を示しています。端末や PC などの DTE デバイスにスイッチを接続するには、ストレート ケーブルを使用します。

表 H-1： Catalyst 4500/4000 Supervisor Engine II 以降、2948G、2980G、および 4912G コンソール ポートのピン配置

ピン留め	信号	方向	説明
1	RTS	出力	送信要求
2	DTR	出力	データ端末レディ
3	TxD	出力	データ送信
4	グラウンド		
5	グラウンド		
6	RxD	入力	データ受信

7	DSR	入力	Data Set Ready
8	CTS	入力	送信可

Catalyst 6500/6000 Supervisor Engine I、II、および 720 コンソールポートの信号とピン配置

Catalyst 6500/6000 シリーズ スイッチには、アクセサリ キットが同梱されています。このキットには、コンソール (ASCII 端末、またはターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行している PC) またはモデムを、コンソールポートに接続するために必要なケーブルとアダプタが含まれています。アクセサリ キットには、次の品目が含まれています。

- RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル
- RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタ (「Terminal」というラベルが付いています)
- RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタ (「Terminal」というラベルが付いています)
- RJ-45-to-DB-25 オス型 DCE アダプタ (「Modem」というラベルが付いています)

上記品目は、Cisco 2500 シリーズ ルータやその他の Cisco 製品に同梱されているケーブルおよびアダプタと同じものです。

コンソールポートモードスイッチ

スーパーバイザエンジンの前面パネルにあるコンソールポートモードスイッチにより、次のように端末またはモデムをコンソールポートに接続できます。

注: ポールペンの先や小さな尖った物体を使って、コンソールポートモードスイッチを操作してください。このスイッチは in 位置で出荷されます。

- **モード 1:** スイッチは in 位置です。RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと (「Terminal」というラベルが付いた) DTE アダプタで端末をコンソールポートに接続するには、このモードを使用します。RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと (「Modem」というラベルが付いた) DCE アダプタを使って、モデムをコンソールポートに接続する場合にもこのモードを使用できます。「[コンソールポートモード1信号とピン配置](#)」セクションを参照してください。
- **モード 2:** スイッチは out 位置です。Catalyst 5500/5000 シリーズ Supervisor Engine III コンソールストレートケーブルと端末接続用の適切なアダプタで端末をコンソールポートに接続するには、このモードを使用します。(ケーブルとアダプタは同梱されていません。)「[コンソールポートモード2信号とピン配置](#)」のセクションを参照してください。

コンソールポートモード1信号およびピン配置

このセクションでは、モード1のコンソールポートの信号とピン配置について説明します。(ポートモードスイッチは in 位置です。)

- **DB-9 アダプタ (PC への接続用)** RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと、(「Terminal」ラベルが付いている) RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタを使って、コンソールポートをターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行している PC に接続します。[表 1-1](#)には、非同期シリアルコンソールポート、RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル、および RJ-45-to-DB-9 メス型 DTE アダプタのピン配置を掲載しています。**表 1-1: ポートモード1-コンソールポートの信号とピン配置 (DB-9 アダプタ)** 1ピン1は、ピン8に内部接続

されています。

- **DB-25 アダプタ (端末への接続用)** RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと、 (「 Terminal」ラベルが付いている) RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタを使って、コンソールポートを端末に接続します。 [表 I-2](#) には、非同期シリアル コンソールポート、RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル、および RJ-45-to-DB-25 メス型 DTE アダプタのピン配置を掲載しています。 **表 I-2 : ポート モード 1 - コンソールポートの信号とピン配置 (DB-25 アダプタ)** 1 ピン 1 は、ピン 8 に内部接続されています。
- **モデム アダプタ** RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブルと、 (「 Modem」ラベルが付いている) RJ-45-to-DB-25 オス型 DCE アダプタを使って、コンソールポートをモデムに接続します。 [表 I-3](#) に、非同期シリアル AUX ポート、RJ-45-to-RJ-45 ロールオーバー ケーブル、および RJ-45-to-DB-25 オス型 DCE アダプタのピン配置を掲載します。 **表 I-3 : ポート モード 1 - コンソールポートの信号とピン配置 (モデム アダプタ)** 1 ピン 1 は、ピン 8 に内部接続されています。

コンソールポート モード 2 の信号およびピン配置

このセクションでは、モード 2 のコンソールポートの信号とピン配置について説明します (ポートモードスイッチは out 位置です)。ピン配置については、 [表 I-4](#) をご覧ください。モード 2 には、端末を接続するのに標準の RJ-45 ストレート ケーブルを使用するオプションがあります。

表 I-4 : コンソールポートのピン配置 (ポートモードスイッチは out 位置)

コンソールポート	コンソールデバイス
ピン (信号)	入出力
1 (RTS) 1	出力
2 (DTR)	出力
3 (Rx D)	入力
4 (GND)	GND
5 (GND)	GND
6 (Tx D)	出力
7 (DSR)	入力
8 (CTS) 1	入力

1 ピン 1 は、ピン 8 に内部接続されています。

Catalyst 8510CSR、および 8540CSR スイッチのコンソールポートのピン配置

ルートプロセッサのコンソールポートは、EIA/TIA-232、DCE、DB-25 レセプタクルです。システム実行時は、DSR と DCD は両方ともアクティブです。RTS 信号は、CTS 入力の状態を追跡します。コンソールポートは、モデム制御あるいはハードウェアフロー制御をサポートしません。コンソールポートには、ストレート EIA/TIA-232 ケーブルが必要です。 [表 J-1](#) は、コンソールポートでのピン配置を示します。

表 J-1 : DB-25 コンソールポートのピン配置

ピン留め	信号	方向	説明
1	GND		グラウンド

2	TxD	<	データ送信
3	RxD	—>	データ受信
4	RTS	—>	Ready To Send1
5	CTS	—>	Clear To Send1
6	DSR	—>	Data Set Ready (常にオン) 2
7	GND		グラウンド
8	DCD	—>	Data Carrier Detect (常にオン) 2
20	DTR	<	データ端末レディ
シールド	GND		シールドグラウンド

1ピン4とピン5は接続されています。

ピン6とピン8の2つは接続されています。

Catalyst スイッチのコンソールポートへの端末接続に関するトラブルシューティング

コンソール接続を介したデバイスへの接続で障害が発生する場合は、次のタスクを実行してください。

- ロールオーバーケーブルまたはストレートケーブルが良品であることを確認してください。(クロスケーブルは使わないでください。)
- PCに接続するDB-9アダプタを交換してみてください。
- 使用しているターミナルエミュレーションソフトウェアの設定が9600ボー、8データビット、パリティなし、1ストップビットであることを確認してください。また、ハードウェアの代わりにどれもフロー制御を、設定することを試みないで下さい。
- ロールオーバーケーブルまたはストレートケーブルが、Catalyst スイッチのコンソールポートに接続されていることを確認してください。ケーブルをAUXポートに接続してはなりません。
- 別のPCまたは端末からCatalyst スイッチのコンソールポートに接続してみてください。

関連情報

- [Catalyst スイッチのコンソールポートへのモデムの接続](#)
- [LAN製品に関するサポートページ](#)
- [LANスイッチングに関するサポートページ](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)